



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2016.9

No.389

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



さあ、出かけよう紅葉の戸隠高原へ

菱沼一充(白岡市)

戸隠高原はバードウォッチャーであれば一度は訪れてみたい、あこがれの探鳥地ではないでしょうか？ 当会では春秋の2回の探鳥会を実施しており、秋の実施回数は今回で23回目となります。秋の観察種類数は87種ですが、以前は初日に飯綱高原の一の鳥居から大ヤチまでのコース、2日目に戸隠高原の宝光社周辺および森林植物園からキャンプ場までのコースの探鳥を実施していましたので、それぞれの記録を含んでいます。

※今月号は、インターネットで[戸隠観光協会公式ホームページ](#)を検索し、[戸隠プリント用マップはこちら](#)を見ながら読まれることをお勧めします(編集部)。

● 宝光社周辺

パワースポットとして注目される戸隠神社は宝光社、中社、奥社の三社からなります。探鳥会では宝光社の奥田旅館に宿泊している関係で、2日目の朝食前の探鳥を宿周辺の農耕地で行っています。

春の探鳥会では野鳥のコーラスを聞くため、4時に植物園に向かいますが、秋は6時の出発となります。10月下旬では、まだ薄暗い時間の出発となります。このあたりの標高は1,000m程度で、まさに紅葉のまっさかりです。平地よりも1ヵ月以上早く晩秋の景色が広がります。

宿周辺ではスズメが観察されますが、森林植物園内にいませんので、戸隠探鳥会では貴重な1種となります。宿周辺ではヤマガラやシジュウカラなどのカラ類が多く観察されます。宿の前の坂を若干下り、蕎麦屋さんの角を右折すると、素晴らしい景色が眼前に開けます。朝日に輝く戸隠の山々を背景に、紅葉



朝日に輝く戸隠の山々(筆者)

に色づく周辺の山裾、刈入れの終わった田圃、黄金色輝く唐松林などなど。

農耕地であるため、観察種は埼玉の平地の鳥とほぼ同じです。ホオジロ、アオジ、モズ、キジなどです。ハシボソガラスも植物園にはいませんので、ここでの観察種となります。

上空に眼をやると、小鳥の群れが移動していきます。ヒヨドリやアトリ、カワラヒワ、ツグミの仲間の群れ。ここ数年はアオバトの群れを観察しています。カケスやアオゲラは森林植物園よりも個体数は多いようです。

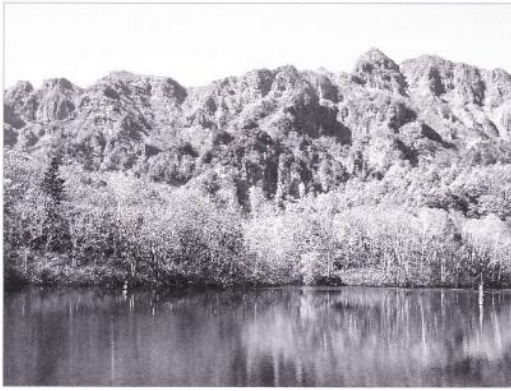
農耕地を抜けると、落ち葉を踏みしめながら坂道を登ります。運が良ければマミチャジナイに出会えるかもしれません。坂を登ると宝光社。お参りをし、お目当ての鳥に出会えるようお願いいたします。

● 森林植物園から鏡池へ

森林植物園は先ほどの宝光社からさらに標高の高い1,200mに位置しており、奥社の参道入り口周辺に広がる湿地および森林です。この時季、園内の木々はすでに落葉しており、野鳥の観察には最適な状況です。

園内は木道が良く整備されており、現在はバリアフリー化されています。トイレは環境への配慮から数が減ってしまいました。森林植物園での探鳥は、初日および2日目の朝食後です。

植物園入り口駐車場でバスを降ります。最初にみどりが池で常連のカイツブリにあいさつをしますが、ここ数年、春にはいるのですが、秋には見かけないようです。ここから、



秋の鏡池（筆者）

鏡池までの道を歩きます。

秋は行楽客やバードウォッチャーも少なく、落ち着いて探鳥ができます。途中の木道のあるところは、隠れた探鳥スポットです。カシラダカ、カラ類、ゴジュウカラ、キバシリ、キツツキ類を見ることができます。秋は囀らないので、地鳴きや採餌するときの音に聞き耳をたてます。おやおや、おしゃべりに夢中になっていると見つかりませんよ。

お昼は鏡池でいただきます。鏡池は人工の池ですが、戸隠のごつごつした山容が、波一つもない鏡のような水面に映し出されることでカメラマンに人気の場所です。NHK大河ドラマ真田丸のオープニングで最初に流れる景色です。ここ数年は、オシドリが常連で、時々他のカモ類も居ることがあります。

鏡池からは奥社参道にある隋神門まで行きます。休憩後、モミノ木園地、水芭蕉園、入口広場等をめぐります。ここでのお目当ては、旅鳥であるムギマキとマミチャジナイです。埼玉ではなかなか観察の機会がありませんが、



ツルマサキとマミチャジナイ（筆者）

植物園内ではかなりの確率で観察することができます。

秋の探鳥のコツは餌のあるところで待つことです。園内には実のなる木々が多くあります。イイギリ、コマユミ、カントウマユミ、ニシキギ、サワフタギ、クマノミズキ、イチイなど。そして、忘れてはいけないのがツルマサキです。常緑のツタ植物で、ニシキギと同じような赤い実をつけます。ツルマサキにはムギマキやマミチャジナイだけでなく、夏鳥のキビタキ、コサメビタキ、他のツグミ類、キツツキ類、カラ類が集まります。園内にはハンノキがたくさんありますが、アトリやマヒワたちはこちらがお好みです。

● 2日目のコースもだいたい同じですが、みどり池から入口園地、小川の小道経由で隋神門へというコースになります。小川の小道ではミソサザイのかわいらしい姿が見られますが、春と異なり囀らないので、一瞬の出来事です。ここまでくれば、初日でムギマキを見逃した方も、宝光社のお参りのおかげで、だいたい見られるようです。

● 戸隠キャンプ場

2日目の午後は戸隠キャンプ場での探鳥となります。当初は、隋神門からささやきの小道を歩いてキャンプ場へ行きましたが、ここ数年はバスでの移動です。20年前に比べると大分歩く距離は減りました。宿で用意したお弁当とキノコ汁をいただきます。

キャンプ場は森林植物園と異なり開けた空間ですので、猛禽類の観察に適しています。また、マミチャジナイやムギマキも見られることが多く、森林植物園での観察が思わしくない年もここで救われたことがあります。

● 食欲の秋と温泉

戸隠探鳥会の楽しみは鳥以外にもあります。20年以上、同じ宿を利用していますが、夕食の美味しいこと！ 焼き魚やお刺身、煮物、天ぷら等、食べきれないくらいです（次頁写真 編集部）。秋にはキノコ料理が加わります。

そして、戸隠と言えば‘そば’ですね。新そばの季節、そば好きにはたまりません。戸



隠そぼ独特の盛り付け‘ボッチ盛り’はどのようにして盛るのでしょうか。

宿の近くに温泉ができてから、バスの送迎をしていただき、通うようになりました。これも戸隠探鳥会での楽しみです。

主な野鳥の出現率(秋・22回開催)

1	カケス	100.0%
2	ゴジュウカラ	100.0%
3	アオゲラ	95.5%
4	マミチャジナイ	90.9%
5	アカハラ	90.9%
6	アカゲラ	90.5%
7	イカル	86.3%
8	ムギマキ	81.8%
9	アトリ	81.8%
10	ミソサザイ	77.3%
11	キバシリ	72.7%
12	マヒワ	68.2%
13	キクイタダキ	63.6%
14	オシドリ	40.9%
15	アオバト	40.9%
16	オオアカゲラ	22.7%



野鳥情報

さいたま市丸ヶ崎～深作 ◇4月22日昼過ぎ、ムナグロ10羽～20羽、鳴きながら降りてきた。今季初。アオサギ1羽、ダイサギがあちこちに8羽、キジ♂2羽など(本多己秀)。

さいたま市岩槻区掛 ◇4月27日午前6時30分～7時30分、ムナグロ合計で81羽。コチドリ、ヒバリ、カワラヒワなど(本多己秀・久文字)。

さいたま市見沼区猿花キャンプ場 ◇5月5日、アオサギ1羽、上空通過。アカハラ1羽、枝移り。センダイムシクイ2カ所でさえずる。キビタキ、小声でさえずる(小林みどり)。

さいたま市北区大宮第二公園 ◇5月10日、カワウ12羽、V字編隊となって上空通過。イワツバメ1羽、数羽のツバメとともに飛びまわる。6月8日、エナガ幼鳥7羽、枝にとまってそれぞれ思い思いに羽づくろい。6月15日、見沼代用水西縁にカルガモ成鳥1羽、幼鳥3羽。成鳥は小声でつぶやくように鳴いている。1羽の幼鳥は水辺の草をくわえてひっばる(小林みどり)。

さいたま市緑区見沼代用水東縁 ◇5月12日、コマドリ、ホオジロなど(小荷田行男)。

さいたま市見沼区染谷～加田屋新田 ◇5月12日、カルガモ3羽、アオサギ1羽、コチドリ2羽。5月24日、メジロ1羽、サクラの木で黒っぽい丸いものをつつく。実なのか虫なのか不明。ホオジロ♂1羽、幼鳥と思われる3～4羽とともに草地を歩いて移動。幼鳥たちは時々飛んで低い枝や藪に移動する。幼鳥は全体にくすんだ黒っぽい褐色で、赤味がほとんどない。成鳥早は見当たらなかったが、イクメンの夫に子ども達を任せてどこへ? 6月6日、ツバメ14羽。久々にハクセキレイ2羽。コゲラがドラミングを続けている(小林みどり)。

さいたま市見沼区見沼自然公園 ◇5月12日、キジ♂1羽。他の場所で声を聞く。公園の池に今年もオオバン1羽。少なくとも2羽の幼鳥を含むエナガの家族が枝移り(小林みどり)。

さいたま市岩槻区野孫 ◇5月16日、アオサギ若鳥1羽、ダイサギ2羽、チュウサギ4羽+。ケリ成鳥2羽、交尾。近くの田んぼには成鳥2羽、幼鳥1羽。1羽の成鳥は鋭く鳴いて飛びまわる。警戒心が相当強いと思われる(小林みどり)。

蓮田市馬込 ◇5月26日午前2時、屋敷林で「トッキョキョカキョク」とホトトギスの声、こんな夜中に住宅地で鳴くとは、少し驚いた（本多己秀）。

春日部市粕壁 ◇5月26日午後12時20分、粕壁小学校東側、いわゆる学校通りの歩道にてコゲラ4羽を視認。巣立ち後の幼鳥連れのようで、親鳥から餌をもらっていた（石川敏男）。

さいたま市見沼区大谷 ◇5月31日、市営霊園「思い出の里」内の小さな湿地でオオヨシキリの「ケッ」「ケケシ」という声。長く続けてさえずらない。姿を探したら、湿地の周りの木の上に1羽を発見。アシ原に、もう1羽。こちらはまったく鳴かずに、せっせと巣材（チガヤの穂）運び。おそらく♀であろう。♂は木の上から時々声援を送りながら、♀の働きぶりを監督しているようだ。見ていると腹が立ってくる。「少しは手伝えよ！」（小林みどり）。

さいたま市中央区八王子5丁目 ◇6月4日と6月26日朝、かやのき団地付近でカッコウ鳴く（大塚純子）。

さいたま市見沼区大和 ◇6月8日、芝川でカルガモ成鳥1羽、幼鳥4羽。岸辺にモズ成鳥♂1羽。昨年はこの辺で営巣していたが、今年はこの1羽しか見当たらない（小林みどり）。

狭山市入間川 ◇6月12日午前、広瀬橋付近でササゴイ（吉田 勉）。

さいたま市桜区・大宮区の鴨川 ◇6月25日午後、島根橋～堀の内橋でカルガモ母子3組。うち1家族は親鳥の2/3大に育った幼鳥が11羽の大所帯。他は1羽と4羽。他にマガモ♀1羽、コガモのペア、カイツブリ、イソシギ、カワセミ、ツバメ、ムクドリ、オナガ、ホオジロ、ハイタカなど。6月26日夕方、根切橋付近でマガモのペア（2ヵ月前から滞在）。♂はエクリプスに換羽中。植田谷堰のすぐ下で前日とは別のカルガモ母子。母ガモは5羽の幼鳥を残して堰の縁に飛び移り、羽づくろいを始めた。川の水は緑濁し、所々にアオコや浮草のような膜が広がる（大塚純子）。

三郷市彦成5丁目 ◇6月18日、三郷市でコウノトリを初めて見た（下写真）。背中に発信器、右足に黄/黒、左足に黒/赤の足輪が付けられており、6月4日に野田市の「こうのとりの里」で放鳥された幼鳥2羽のうちの、♂愛称「きずな」と思われる。7月1日にも確認できた（高田範之）。



さいたま市緑区見沼代用水東縁 ◇5月12日、コマドリ、ホオジロなど（小荷田行男）。

さいたま市西区の鴨川 ◇6月29日夕方、加茂川団地近くの遊歩道脇の電線でツバメ幼鳥6～7羽。親鳥が捕えてきては与える小型のトンボを胴から先にゆっくり飲み込む。中の1羽がくわえ損ねて道路に落としたのはコシアキトンボの♀だった（大塚純子）。

久喜市久喜菖蒲公園 ◇6月30日、コアジサシ3羽が優雅に舞い、時々ダイビング。浮島でアオサギ20羽土、コサギ80羽土、ダイサギ10羽土、小さくて嘴が黄色いのはアマサギか？ 5～6羽かたまっている。今年生まれの雛もそれぞれ大きくなっていた（長嶋宏之）。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇6月30日、竹林から季節外れにウグイスの囀りが聞こえた。7月5日、コアジサシ1羽が沼に飛び込み、小魚を捕っていた（長嶋宏之）。

表紙の写真

ペリカン目サギ科ササゴイ属ササゴイ

7月28日、入間川。獲物をねらって動かないササゴイの背に、ウチワヤンマがとまった。

松平昭吾（さいたま市）



行事案内



エソビタキ(編集部)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：中学生以下無料、会員100円、一般200円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意ください。

リーダー研修会(要予約)

期日：9月4日(日)

詳細は8月号をご覧ください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：9月11日(日)

集合：午前8時20分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道 熊谷8:00発、または寄居7:39発に乗車。

担当：千島、新井、鶴飼、倉崎、田島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：まだまだ暑いですが、留鳥の幼鳥、早々と南へ移動中の夏鳥、猛禽を観察しましょう。

ご注意：今月まで、集合の早い夏時間です。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：9月17日(土) 午後3時～4時ころ

会場：会事務局108号室



昨年9月6日のリーダー研修会(編集部)

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：9月18日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後路線バスで現地へ(注意：案内人は8時過ぎに北浦和駅東口到着予定です)。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：小林(み)、青木、赤堀、浅見(健)、浅見(徹)、楠見、小菅、新部、畠山、増田

見どころ：秋を迎えた三室の鳥たち。その暮らしぶりは、どんなふうに変ったのでしょうか？ 旅の途中の鳥たちとの思いがけない出会いも楽しみ。鳥の世界は秋ですが、人間にはまだまだ暑さ対策が必要です。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：9月18日(日)

集合：午前8時、東武越生線川角駅前。

交通：東武東上線川越7:16(準急)→坂戸で越生線乗り換え7:39発。または寄居6:44→小川町乗り継ぎ、坂戸で越生線乗り換え。JR埼京線大宮6:37→川越で東武東上線乗り換え。

担当：山口、青山、久保田、志村、鈴木(秀)、高草木、藤掛、藤澤、持丸

見どころ：川沿いのコンクリート遊歩道新設で、以前とはかなり様相が変わった探鳥会になります。コース上流ではこれからも工事が続きます。環境と鳥たちの変化にも気を付けて歩きたいと思います。彼岸花が美

しい探鳥会です。昨年はサシバ、ハヤブサ、ノスリなどの猛禽類も出てくれました。いつものカワセミに会えるのも楽しみです。多和田天神橋の公園にトイレが新設されました。

シギ・チドリ類県内調査

期日：9月19日（月・祝）

日本野鳥の会埼玉では、春と秋の2回、独自にシギ・チドリ類の調査を行っています。多くの会員の参加・ご協力をお願いします。

◆ 大久保農耕地（さいたま市）

集合：午前9時30分荒川総合運動公園グラウンド北側駐輪場わきの広場（横堤の下）。

交通：浦和駅西口②番バス乗り場から8:33発「大久保浄水場」行きバスで終点下車、徒歩約15分。

担当：石井

解散は正午頃の予定。調査のため参加費不要。小雨決行ですが、大雨や悪天候の場合は中止します。シギ・チドリ類が大変少ないこともあります。

タカの渡り調査

毎年行う大切な定点観測です。初めての方も大歓迎。雨天（小雨でも）中止。調査のため参加費不要。いずれも調査時間内のご都合のよいときに、各調査地点にお出かけ下さい。

◆ 中間平（ちゅうげんだいら）展望台（寄居町秋山）

日時：9月19日（月・祝）午前8時～正午まで。雨天の場合は20日（火）に実施します。

交通：車で寄居町から294号線を東秩父方面に向かい、途中で右に入ります。登る途中に老人ホームあきやま苑があります。中間平緑地公園の中にある、道路脇の展望テラスです。駐車場、トイレあり。

担当：千島

見どころ：過去3年間の調査結果からサシバの渡りピークが早くなっているので調査日を変更しました。昨年はサシバ、ハチクマ、ツミ、オオタカ、ハヤブサ、ノスリを観察しました。

◆ 天覧山展望台（飯能市）

日時：9月25日（日）午前9時～正午ころま

で。雨天中止。

交通：東飯能駅西口から、7:43または8:03発バスで「天覧山下」下車。少し戻り、横断歩道を渡り坂を登る。バス停から市民会館～能仁寺～天覧山登山口を経て山頂まで徒歩約30分。滑りやすい足元にご注意。駐車は市民会館 8:00 より。

担当：鈴木（秀）

見どころ：サシバ、ハチクマ等の渡り調査です。昨年は生憎の雨、また 9/25という日は天覧山で渡りの数が少ない特異日。今年こそは上昇気流に乗り舞い上がるタカ柱を見たいものです。

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：9月22日（木・祝）

集合：午前9時30分、松伏記念公園北口駐車場。

交通：東武伊勢崎線北越谷駅東口、①番バス乗り場から、8:57発、茨城急行バス「エローラ行き」乗車。松伏高校前で下車して、道の反対側の駐車場へ。

担当：田邊、植平、佐藤、佐野、進士、野村（修）、野村（弘）、橋口、森下、吉岡

見どころ：秋分の日（彼岸の中日）は、春に実施した探鳥会と同様に、俗事をしばし忘れ、調整池と幾つかの運動場で構成された公園とその周辺の農耕地をのんびり歩く探鳥会に参加しましょう。渡りの季節ですから予想外の鳥に出会うことがあります。例えばその鳥が本年の初見の夏鳥だったということも過去にありました。楽しい探鳥会になることが期待されます。初心者やお子様連れも大歓迎です。



「今回も楽しくなりそうです」（編集部）

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：9月25日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。
交通：西武新宿線本川越8:42発、所沢8:39発
に乗車。

解散：正午ころ、稲荷山公園。

担当：長谷部、石光、久保田、高草木、中村（祐）、
藤掛、星、水谷、山口、山本

見どころ：ここは特別な渡りの中継地ではありませんが、9月下旬、何が出るか分かりません。2014年はコサメビタキとエゾビタキ、2015年はカッコウとツツドリいずれも同じ場所で見られました。3年続くことを期待します。

長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：10月22日（土）～23日（日）

集合：22日午前9時、
長野駅コンコース
新幹線改札口を出て右側。



交通：長野新幹線「あさま601号」（東京6:52→大宮7:18→熊谷7:31→高崎7:49→長野8:40着）、または「かがやき503号」（東京7:20→大宮7:46→長野8:43着）など。

解散：23日午後4時ころ、長野駅前。あさま624号（16:23発）に乗車できるように調整します。

費用：12,000円の予定（1泊3食、現地バス代、保険料など）。万一過不足の場合は当日精算。集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：25名（先着順、埼玉会員優先）。

申し込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、喫煙の有無を明記し、菱沼一充

まで。9月1日消印から有効受付とします。

担当：菱沼（一）、浅見、近藤、菱沼（洋）

見どころ：旅鳥のムギマキとマミチャジナイ。

詳しくは今月の特集記事をご覧ください。

ご注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室の用意はできません。

乗鞍・上高地探鳥会に参加して

菅井 勤（栃木市）

7月30日、乗鞍に着くと直ぐに「ライチョウが出ている」との話が聞こえてきて、お花畑に向かって急ぎ足で移動。先程までは近くのエゾマツ下の岩付近で雛を連れて歩いてきたとのこと。既に姿を隠してしまった様子。「また、どこかに出てきますよ」と話を信じ、じっと待つことに。

誰かが「あそこに出た」と言ったが、「あそこ」がなかなかわからずあたふた。やっと、少し離れたエゾマツの上に姿を見つけ、皆が大喜び。これで、目的達成だが肝心の雛の姿が見つからず。

やはり、観光客も多く警戒心が強いので出てこない。少し経ち、人が少なくなると突然ライチョウ♀が雛を連れて現れ、残った参加者は大感激。大満足の雛との出会いでした。



上高地も観光客が多い。しかし、ここでは念願のコマドリが見つかり、全員満足。天気にも恵まれ、目的の鳥にも会えて楽しい探鳥会となりました。

一瞬の出来事

長嶋宏之（蓮田市）

6月3日、越谷市中島。それは一瞬の出来事でした。「あああ！」と思っていたら、隣で友人がパシャパシャパシャ。

撮れた写真は「ヤッター！」と言わんばかりに、ハシブトガラスが大きな青い卵をくわ



えて飛び去るところでした＝写真（撮影：角田豊）。犠牲になったのはゴイサギの卵のようでした。



行事報告

1月10日(日) 松伏町 まつぶし緑の丘公園
参加: 33名 天気: 快晴

マガモ カルガモ ハシビロガモ コガモ キンクロハジロ ミコアイサ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ バン オオバン イカルチドリ タシギ トビ ノスリ カワセミ チョウゲンボウ ハヤブサ モズ ハシボソガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ カシラダカ アオジ オオジュリン (37種) (番外: ドバト) 公園の池にはカモが6種、今年もミコアイサを見ることができた。周辺の空にはいつもの猛禽が飛び、屋敷林では冬鳥が姿を現し楽しませてくれた。(橋口長和)

2月28日(日) 本庄市 坂東大橋
参加: 34名 天気: 快晴

キジ オカヨシガモ ヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ オナガガモ コガモ キンクロハジロ ホオジロガモ ミコアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ オオバン シロチドリ トビ オオタカ ノスリ ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (44種) (番外: ガビチョウ) 坂東大橋の上に止まるハヤブサを見てスタート。ヒバリが盛んに囀り、ベニマシコ、ジョウビタキ、アオジが現れる。オオタカが帆翔し、オオジュリンがアシ原に見え隠れする。河原では期待のカワアイサは見られなかったが、カモ10種にカンムリカイツブリも混じって、カモの名所の面目躍如。(新井 巖)

3月5日(土) 東京都 葛西臨海公園 Ladys
参加: 16名 天気: 晴

オカヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ ホオジロガモ ウミアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ ミミカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ クロツラヘラサギ ヘラサギ オオバン ダイシャクシギ イソシギ ユリカモメ カモメ セグロカモメ ミサゴ トビ ノスリ カワセミ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ イソヒヨドリ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ アオジ オオジュリン (51種) (番外: ドバト) 第2回目の女性限定探鳥会。今回はお弁当持参で、お昼を挟んでゆっくりじっくり鳥たちとのご対面。西渚ではカンムリカイツブリやハジロカイツブリの夏羽に会えた。クロツラヘラサギとヘラサギは大分遠くだったが、何とか特徴のある嘴を確認することができた。少々時間オーバーしてしまっただが、皆さんに楽しんでいただけたと思う。(菱沼洋子)

3月6日(日) 蓮田市 黒沼
参加: 46名 天気: 曇後晴

カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ オオバン オオタカ カワセミ コゲラ ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ アカハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (31種) 春の兆しを探そうと出発した。アオジの胸が鮮やかになっており、赤くなったベニマシコの小群が現れて歓声が上がり、上沼の岸でウグイスの初鳴きが聞こえて来るなど春がやってきたと感じられた。重ねてハヤブサ2羽が現れて鳴きかわしながら絡み合うように飛ぶ様子を皆で見られて感激した。(玉井正晴)

3月8日(火) 滑川町 武蔵丘陵森林公園
参加: 25名 天気: 晴

コジュケイ ヒドリガモ マガモ カルガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ オオタカ コゲラ アオゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシ

ブトガラス キクイタダキ ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ツグミ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (30種) (番外:ガビチョウ) 平日の静かな公園を期待していたが、当日は探鳥ポイントの池の清掃作業や篠藪の伐採が行われていた。静かな場所に移動するとシジュウカラ、ヤマガラ、ウグイスのさえずりが聞こえてきた。キクイタダキも姿を見せてくれた。一番声の大きかったのはガビチョウで、あちこちで存在をアピール。途中立ち寄った山道でカタクリの花が咲き出していた。(中村豊己)

3月12日(土) さいたま市 見沼自然公園

参加:27名 天気:曇

オカヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ オナガガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ ダイサギ バン オオバン クサシギ オオタカ ノスリ コゲラ チョウゲンボウ モズ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ アカハラ ツグミ スズメ キセキレイ ハクセキレイ タヒバリ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (39種) 第7回見沼田んぼクリーン大作戦に参加。ゴミを拾いながら、しっかりと39種類を確認。なかでも、ここでの探鳥会に21年ぶりに登場したクサシギで、大いに盛り上がった。(浅見 徹)

3月12日(土) 戸田市 彩湖

参加:26名 天気:曇

ヨシガモ マガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ クイナ オオバン ユリカモメ セグロカモメ トビ カワセミ アカゲラ ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ オオジュリン (37種) (番外:ドバト、ガビチョウ) 朝、広大な駐車場が既に満車。自転車レースのイベントと重なってしまい、高速で走る自転車に細心の注意を払いながらの探鳥となった。そんな中でも公園の池にはクイナ、カワセミが登場、ベニマシコの声も聞こえている。湖に出ると

定番カンムリ、ハジロ、両カイツブリ、そしてヨシガモ他冬鳥達がまだまだ…。こんな環境の中での探鳥、皆様のご協力に大感謝! (石塚敬二郎)

3月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加:32名 天気:曇

コジュケイ キジ カルガモ キジバト カワウ ダイサギ トビ オオタカ ノスリ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ イカル ホオジロ カシラダカ アオジ (31種) (番外:ガビチョウ) この冬は鳥が少ない、と言いながらもそこそこの種数は出た。時間をかけてゆっくり鳥を探ることができて、林の小径は今回も楽しかった。終了後、「野鳥の森」の入り口で、梢に止まるイカルの群れをみんなで見て、ほとんどの人がアフターに流れる。(榎本秀和)

3月19日(土) 加須市 加須はなさき公園

雨のため中止。(長嶋宏之)

3月19日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア:12名

宇野澤晃、海老原教子、海老原美夫、榎本秀和、大坂幸男、小林みどり、佐久間博文、志村佐治、藤掛保司、増尾隆、三ツ矢正安、吉原俊雄

3月20日(日) 栃木県 日光東照宮裏山

参加:34名 天気:曇

カルガモ コガモ キジバト トビ コゲラ アオゲラ ハシボソガラス ハシブトガラス キクイタダキ ヒガラ シジュウカラ ヒヨドリ エナガ キバシリ ミソサザイ カワガラス ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ ホオジロ (22種) 1週間前の雪が消え、青空ものぞいたが、鳥は少なかった。猛禽類はトビだけ。そんな中、カワガラスは何度も姿を見せてくれ、ミソサザイの囀りもあちこちで聞けた。帰路、ほぼ全員でミソサザイを間近に観察できて、ホッと胸をなでおろした。(浅見 徹)

3月20日(日) さいたま市 三室地区

参加:51名 天気:晴

キジ オカヨシガモ カルガモ コガモ キジバト
 ダイサギ オオバン ユリカモメ ハイタカ
 オオタカ カワセミ モズ ハシボソガラス ハシ
 ブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ
 メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズ
 メ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ
 ホオジロ アオジ (27種) (番外：ドバト) ホオ
 ジロやヒバリのさえずりが降り注ぎ、三室の里は
 春本番。芝川ではコガモがピリッ、ピリッとさか
 んに鳴いていた。“婚活”もいよいよ終盤を迎えた
 ようだ。野鳥の会東京と神奈川支部からそれぞれ、
 幹事の方が参加。申し合わせではなく、偶然、と
 のこと。神奈川支部の黒田幹事、「久しぶりにのど
 かな田園風景を楽しみました」。 (小林みどり)

3月20日(日) 松伏町 松伏記念公園

参加：20名 天気：晴

キジ マガン マガモ カルガモ コガモ カイ
 ツブリ キジバト アオサギ ダイサギ オオバ
 ン カワセミ ハヤブサ モズ ハシボソガラス
 ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨド
 リ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ
 スズメ ハクセキレイ カワラヒワ シメ ホオ
 ジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (30種)
 (番外：ドバト) 東京に開花宣言が出された翌
 日で、春の好天に恵まれた。地元公民館からの3
 名を含め総勢20名は元気にスタート。調整池では
 居残りらしいマガンやマガモ、コガモをじっくり
 観察し、農耕地でヒバリの囀りに酔い、中川の土
 手道では幾つかの冬鳥に別れを告げ、キジやカワ
 セミの美しさやハヤブサの雄姿に思わず歓声があ
 った楽しい探鳥会だった。 (田邊八州雄)

3月21日(月、振休) 坂戸市 高麗川

参加：27名 天気：晴

キジ カルガモ キジバト カワウ アオサギ
 ダイサギ オオバン コチドリ イソシギ オオ
 タカ カワセミ コゲラ モズ ハシブトガラス
 ヤマガラ シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウ
 グイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ ジ
 ョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ
 セグロセキレイ カワラヒワ シメ イカル ホ
 オジロ カシラダカ アオジ (34種) (番外：ドバ
 ト、ガビチョウ) 多和目橋から多和目天神橋間
 は、「川のまるごと再生プロジェクト」の遊歩道工

事で通常コースを歩けず迂回。城山橋上流もプロ
 ジェクト対象となっていて、測量が始まっている。
 コースの大半が工事対象となっているので、今後、
 野鳥の生息状況の変化を見守っていききたい。コー
 ス環境は工事で悪化しているが、常連のカワセミ
 にコチドリ、オオタカ、イカルなども見られ、予
 想よりよい結果となった。 (山口芳邦)

3月24日(木) 行田市 さきたま古墳公園

参加：26名 天気：曇

マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバ
 ト カワウ アオサギ ダイサギ クイナ コチ
 ドリ タシギ トビ オオタカ カワセミ コゲ
 ラ チョウゲンボウ モズ カケス ハシボソガ
 ラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ
 ツバメ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ
 シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハク
 セキレイ タヒバリ アトリ カワラヒワ シメ
 ホオジロ ホオアカ アオジ オオジュリン (40
 種) いつもの森ではオオタカ、カケスが鳴く。
 神社の水路ではカワセミ、シロハラが現れ、公園
 外に出ると上空をオオタカが舞い、チョウゲンボ
 ウが悠然と飛び去る。旧忍川ではホオアカやジョ
 ウビタキ、オオジュリンがアシにとまり、クイナ、
 コチドリ、タシギの競演に歓声が上がった。水面
 には殆どの方が初認となるツバメが飛びかうなか、
 去りゆく冬鳥に別れを告げた。 (相原修一)

3月26日(土) 秩父市 秩父ミュージアムパーク

参加：54名 天気：晴

コジュケイ キジ カルガモ キジバト カワウ
 トビ ノスリ クマタカ コゲラ アオゲラ チ
 ョウゲンボウ ハシブトガラス ヤマガラ ヒガ
 ラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ
 シロハラ ツグミ ジョウビタキ ビンズイ マ
 ヒワ ウソ シメ イカル ホオジロ カシラダ
 カ (28種) (番外：ガビチョウ) 10数年ぶりの秩
 父市内での探鳥会で期待も膨らむ。出発して間も
 なく、音楽寺付近でウソやイカルを一部の人が見
 られた。大庭園では頭の黒くなったカシラダカを
 全員で観察する。せせらぎ広場や展望台ではやや
 鳥の数が少なかったが、昼食をとった武甲見広場
 ではマヒワの群れやチョウゲンボウ、ノスリの飛
 翔の姿を楽しみ、最後には何とクマタカも出現し
 た。皆様大変お疲れさまでした。 (長野誠治)



● **山階芳麿賞記念シンポジウム**

(公財)山階鳥類研究所による第 19 回山階芳麿賞が上田恵介立教大学名誉教授に贈られることになり、記念シンポジウム『子を他人に預ける鳥、カッコウ類研究の最前線』が開催されます。

日時:平成 28 (2016) 年 9 月 24 日 (土) 13:30 ~16:00 (開場 13:00)

会場:東京大学農学部弥生講堂 (東京都文京区弥生 1-1-1、東京メトロ南北線東大前駅徒歩 1 分、東京メトロ千代田線根津駅徒歩 8 分)

講演

● 托卵研究はどこまで進んだか? ~ 欧米の研究、日本の研究 ~ 上田恵介 (立教大学名誉教授)

● 仮親を騙す“分身”の術 ~ ジュウイチ雛の妙技 ~ 田中啓太 (慶應義塾大学文学部)

● 南太平洋の托卵をめぐる攻防 ~ 日本の鳥にはないセンニョムシクイの対抗策 ~ 佐藤望 (認定 NPO 法人バードリサーチ)

参加費:無料 申込み:不要 定員:300 名 (先着順)

問い合わせ:〒270-1145 千葉県我孫子市高野山 115 (公財)山階鳥類研究所「山階賞」係 電話:04-7182-1101 FAX:04-7182-1106 E-mail:koho@yamashina.or.jp

● **県鳥獣保護管理員としての活動**

7 月 10 日(日)、さいたま市民会館いわつきで開催された県東部環境管理事務所担当の狩猟免許更新講習において、県鳥獣保護管理員である小林みどり当会副代表が、「鳥獣の保護及び管理に関する講義」の講師を務め

た。鉛弾を代替品に切り替えてほしい、非狩猟鳥を撃たないように識別力アップを心掛けてほしい、など。狩猟免許保持者百数十名が聴講。

● **会員数は**

8 月 1 日現在 1,740 人。

活動と予定

● **7 月の活動**

7 月 9 日(土)『しらこぼと』7 月号校正 (海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、佐久間博文、志村佐治、藤掛保司、長嶋宏之)。

7 月 17 日(日) 役員会(司会:石川敏男、各部の報告・その他)。

7 月 19 日(火)『野鳥』誌を購読しない会員向け、『しらこぼと』8 月号を郵便局から発送 (事務局)。

● **9 月の予定**

9 月 3 日(土) 編集部会。普及部会。

9 月 10 日(土) 10 月号校正(午後 4 時から)。

9 月 17 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。

9 月 18 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

編集後記

9 月号の編集のため、早くも 30 通近いメールを Y 編集部長らとやり取りしている。今は、8 月初め。35℃の猛暑日。ラジオではオリンピックを熱く放送している。クーラーをかけても、9 月の季節感に程遠い。編集部各ページ担当者たちは、それぞれタオルで汗をふきながら(多分)、頭をむりやり 9 月にして、編集作業を続けている。今月も無事に『しらこぼと』を飛ばせるか。(海)

しらこぼと 2016 年 9 月号(第 389 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 編集部への野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社